

人民元国際化の現状と課題：国際通貨論による一考察

唐, 麗

<https://hdl.handle.net/2324/4474927>

出版情報：九州大学, 2020, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	唐麗			
論文名	人民元国際化の現状と課題 —国際通貨論による一考察—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	岩田 健治
	副査	九州大学	教授	清水 一史
	副査	九州大学	准教授	堀井 伸浩

論文審査の結果の要旨

本論文は、2009年から中国政府が積極的に推進している「人民元の国際化」についてとりあげ、その現状と課題について、国際通貨論の理論的ツールを用いて体系的に考察を行っている。

本論文の意義として、以下の点を挙げることができる。第1に、人民元国際化の初期条件ともいえる現行の国際通貨体制に関して、ドルに国際基軸通貨としての慣性が働いているばかりか、ドル基軸通貨体制が一層強化されつつあることを明らかにした点である。第2に、人民元の国際化について、①単なる国際化、②地域的国際通貨化(=人民元圏形成)、③グローバルな基軸通貨化という三つのステージを設定したうえで、貿易契約決済通貨、投資通貨、公的国際通貨、為替媒介通貨の各機能について検討し、現状では「単なる国際化」にとどまっていることを明らかにした点である。第3に、人民元の国際化が今後「人民元圏形成」のステージに到達するためには、①投資通貨分野における利用拡大、②公的基準通貨および準備通貨としての機能拡充が重要であることを示した点である。

全体として本論文は、ドル本位制やドイツ・マルク国際通貨化に係る研究を通じて内外で体系化されてきた国際通貨論を人民元国際化研究に初めて応用することで、2009年以降、政策的に推し進められてきた人民元の国際化が限定されたものとなっていることを貿易・投資・外国為替の各分野における豊富なデータによって解明するとともに、次なる目標とされる「人民元圏形成」に向けた諸条件についても明らかにしている。人民元建て貿易・資本取引と外国為替市場での人民元取引との関係等について一層の具体的解明が望まれるが、これらの点は本論文の価値を損なうものではなく、今後追求すべき課題に属する。

以上の理由により、本論文調査会は、唐麗氏より提出された論文「人民元国際化の現状と課題—国際通貨論による一考察—」を博士(経済学)の学位を授与するに値するものと認める。